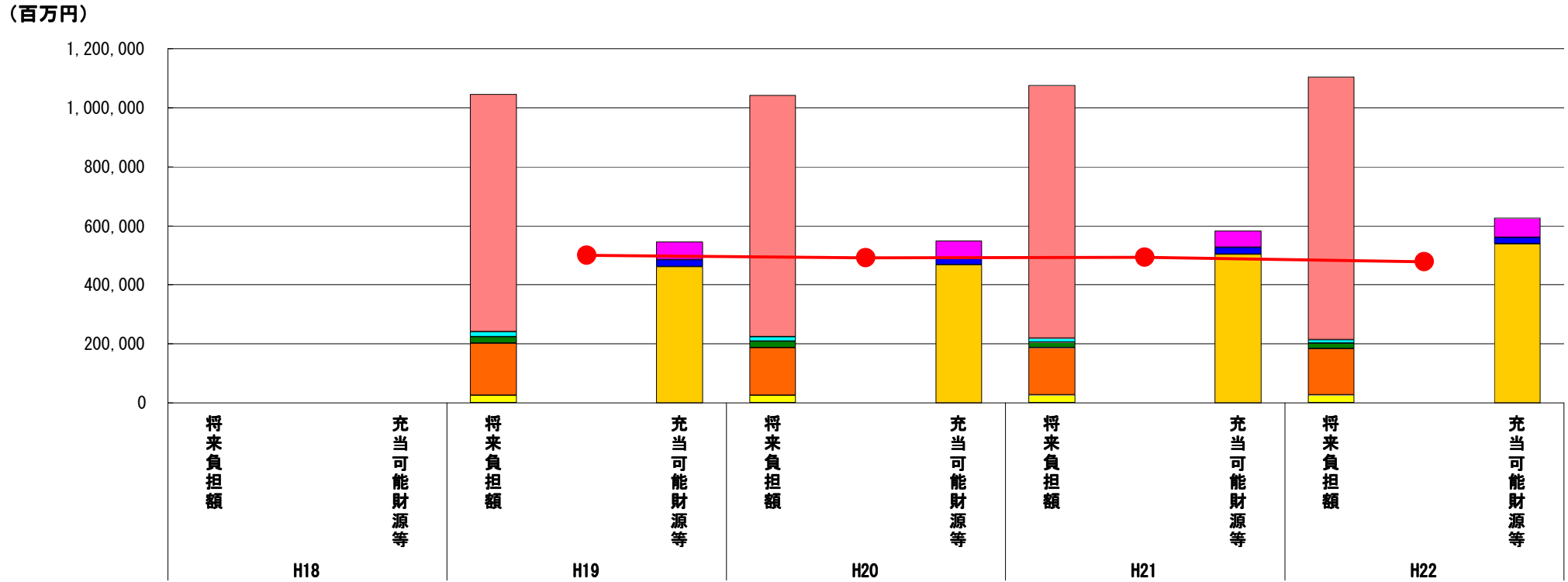


(8) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成22年度

和歌山県



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	-	804,617	817,630	857,328	890,524	
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	15,794	14,603	13,261	11,862	
	公営企業債等繰入見込額	-	22,257	22,662	19,467	19,031	
	組合等負担等見込額	-	-	-	-	-	
	退職手当負担見込額	-	177,228	160,631	158,462	156,545	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	24,671	25,533	27,532	26,582	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-	
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	-	59,418	59,819	56,473	65,236	
	充当可能特定歳入	-	24,301	21,122	23,374	21,565	
	基準財政需要額算入見込額	-	461,023	468,201	503,287	539,404	
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	499,826	491,918	492,917	478,339	

分析欄

一般会計等に係る地方債の現在高は臨時財政対策債の発行増に伴い、332億円増加しているが、控除すべき基準財政需要額算入見込額も361億円増えているため地方債に係る将来負担額は減少している。

さらに「新行財政改革プラン」に基づき職員の定数削減に取り組んだことで退職手当負担見込額が減少しており、充当可能基金が増加したことなどによって、将来負担比率の分子は、前年度に比べて146億円の大幅な減少となった。

今後は、退職手当債や行政改革推進債等の発行により、将来負担が増加していくおそれもあるため、事業の効率化・重点化により県債発行を抑制するなど行財政改革の推進により健全化を図っていく。